

第2回 圏域地域医療構想策定委員会

圏域	西播磨圏域
日時	平成28年1月14日(木) 15:30~17:00
場所	たつの市はつらつセンター 3階 多目的ホール
司会	井上会長(たつの市揖保郡医師会長)
出席者	欠席:毛利委員・西川委員・森中委員・三浦委員 代理人が出席:谷口委員、栗原委員、明石委員、福元委員、北川委員、遠山委員、庵谷委員、西中委員、大谷委員
議事次第内容	(1) 検討委員会等開催状況について (2) 兵庫県地域医療構想(骨子案)について (3) 西播磨圏域の課題及び具体的な施策について (4) 今後の進め方について
結論	西播磨圏域の課題及び具体的な施策について大筋で合意を得る。
主な意見・質疑応答	Q(委員)もっと具体的なことが書かれるのかと思っていた。2025年に向けて、西播磨地域の慢性期病床数は過剰となっているが、減らせということになるのか。この病床については必要であり、減らされては困るということを書き込むことは可能なのか。 Q(委員)曖昧な目標ではあるが、この程度の目標のほうが、今後実際にどうしていくかを考えやすい。今の段階からベッド数をどうするかを書かない方がありがたい。 A(県)地域医療構想策定後、地域医療構想調整会議で協議を行い、合意が得られたものについては、基金を要求し具体的な取り組みを進めていく。今の段階では、具体的に決まっていることがなければ、記述としてはこれくらいの形になる。必要病床数は目標値ではなく、推計値である。今の段階では絶対こうしなければならないというものではない。不足している回復期病床や在宅医療の充実が必要となるので、そのあたりを施策に書いて頂く。 Q(委員)医療従事者確保について、具体的な施策のところに新しい専門医制度のことは何も書かれていないが、書き込むつもりはないのか。 A(県)専門医制度について検討委員会では1回も出ていない。話を出してもらってもいいが、これを書き込むのは非常に難しいと思う。 Q(委員)地域医療構想ができた後、地域医療構想調整会議が設置されるが、この推計値をもとに推計値に近づけるための具体的な取り組みについて検討していくことになるのか。 A(県)あくまでも推計値の扱いであり、目標値ではない。国の基金の使い道として、特に病床の機能分化・連携の推進に用いることが書かれている。病床を削減する形で、病床機能を変換するための事業でなければ基金は使えない。そういうことを調整会議の中で検討していくことになる。
次回までの課題	在宅医療の充実の項目について 薬剤指導と薬剤師の人材不足の問題について分けて説明する。 在宅介護の問題について、課題の整理の仕方を検討する。